

福島の友よ怒って良いのです田畑守り古希過ぎるのに

水道 高木 マリ

指先の感覚老いしか二度三度押すこと多し電話番号

大塚 加藤 喜雄

オリンピック・万博 若き日本と共に歩みし青春の日々

向丘 三宅 あき子

今は世に無き人もまたありぬべし昔の職場の集合写真

千石 小出 風沙子

信号を待つ間に汗をぬぐいつつ仰げば空に鰯雲あり

千駄木 伊藤 恵津子

若くして戦火に逝きし同世代悼み忘れず老いを生き継ぐ

西片 松林 利枝

筑百年崩れし塀のその奥に同じ造りの小さき家あり

向丘 高野 伸子

春先に差し芽をしたる松葉菊いまプランタにあふれるばかり

小石川 荻原 和夫

行く夏を惜しむが如く朝顔の小さくになりていつまでも咲く

本駒込 鈴木 たまき

頂きに淡き月浮べあけがたのマッターホルン朝日にそまる

千石 原 順子

草の実や良きことばかり母に告ぐ

音羽 森田 幸子

學問に勵むほかなく秋深む

小石川 後藤 伝一郎

銃声に似たる一音霧深し

向丘 三宅 あき子

満月や時々揺るる魚の影

千石 押田 富子

ゴンドラも谷も閉ざして霧流る

西片 白井 良治

山鳩の声窓に寄る今朝の秋

西片 川上 澤子

額に付く熱砂あの日の皇居前

湯島 西村 昭

百歳の母も名月仰ぎ見る

湯島 坂本 雅俊

桔梗咲く石屋の石の白さかな

向丘 荒田 栄子

坂の上に豆明月の昇りけり

小日向 小川 浩男